Ⅲ　学習教材活用に関する推薦

【理科】

最近、テレビや新聞でも SDGs という言葉を見ない日はありません。地球上にある豊かな自然環境を未来に残し、持続可能な社会を築くことは、私たち大人の責務であり、人類にとって喫緊の課題となっています。この問題を解決するためには、豊かさや便利さを享受した私たちの生活を見つめ直すことが必要です。それと同時に、この問題を私たち一人一人が他人事ではなく自分事として考え、実際に行動することが求められています。

インドネシアのバリ島では、現在レジ袋などの使い捨てのプラスチックごみが利用されていません。これは、2013 年、バリ島に住むメラティ 10 歳とイザベル 12 歳の姉妹が活動を始めたことがきっかけとなっています。なんと 10 歳と 12 歳の子どもの取り組みがバリ島全体に広がったのです。

2 人は美しい島であるバリ島にたくさんのプラスチックごみが捨てられているのを見て、使い捨てプラスチックを禁止するためのキャンペーン「バイバイ・プラスチックバッグ運動」を始めました。「バイバイ・プラスチックバッグ運動」の目標は、レジ袋などの使い捨てプラスチック製品の使用を禁止することです。そのために彼女らは、ビーチの清掃やワークショップを実施しました。学校やお祭りの会場、市場等でスピーチを行いながら、たくさんの人と対話をするということを繰り返したのです。そして、6 年にわたる努力の末、バリ島では 2019 年に、レジ袋、カップなどの使い捨てプラスチック製品の利用が禁止されたのです。

たった 2 人の子どもが始めた活動が、社会をよりよくしたというこのニュースは、インドネシアだけではなく世界中の大人たちを驚かせました。

4 年生の理科「雨水のゆくえ」は、新学習指導要領の改訂に伴い取り入れられた新しい単元です。最近、手が汚れるからと土を触れることを苦手とする子どもたちが見られます。熊本の地下水は、阿蘇山や熊本の大地が作り出した大切な宝物です。

この「雨水のゆくえ」の学習では、身近な自然である土に興味をもち、自然のすばらしさや不思議さを味わう絶好の学習機会です。ぜひ、本書を活用されて、教師が子どもと一緒になって学習を深めながら、熊本の宝物を引き継いでもらいたいものです。学校での一つ一つの取り組みが、イサベラ姉妹のように熊本の自然環境をよりよくし、熊本の宝物を守る原動力になるものと信じております。

熊本県小学校理科教育研究会　会長
熊本市立長嶺小学校　校長　木村　和仁

【社会科】

学習教材「地下水と土を育む農業」を視聴し、洗練された映像と、授業と直結した内容・構成が印象に残りました。

この教材の優れている点は、本県や熊本市の現状や問題を教材として取り上げている点だと思います。子どもたちは、益城町や熊本市等の様子が取り上げられていることで、身近な社会事象として、また、自分のこととして農業と環境との関係について考えることができると思います。身近な社会事象であることから、これまでの経験をもとに考察したり、取り上げられている場所を実際に見学したり、取材したりする活動も考えられます。

また、ストーリーが問題の提示とその解決という問題解決的な学習を念頭に置いて構成されている点も授業化するうえでの利点であると思います。全編を通して視聴させ、教材の趣旨を理解させる活用法も有効ですが、問題の提示場面で、視聴を中断し、登場する子どもたちとともに考えたり、調査したりする活動も有効だと思います。

さらに、このコンテンツは、３年生の「市や町のうつりかわり」、４年生の「県の地理的環境の概要」「人々の健康や生活環境を支える事業としての飲料水」、５年生の「我が国の食料生産としての農業」「我が国の自然環境と国民生活との関連」等の学習において、導入教材、調べ学習の対象、発展学習の問題としての活用が考えられる内容であることも、授業活用に際して強みとして取り上げることができると思います。

教育現場において、学習問題や内容、取材対象の身近さを強みとして有効に活用することで、子どもたちに主体的な学習を保障するとともに、学習効果として地域の一員としての自覚をもたせるうえでも本教材の活用を推薦するものです。

熊本県小学校教育研究会社会科部会　会長
熊本市立向山小学校　校長　青木　透